

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174200624		
法人名	有限会社 かみさと介護ステーション		
事業所名	グループホーム かみさと		
所在地	埼玉県児玉郡上里町大字七本木291番地1		
自己評価作成日	平成27年2月14日	評価結果市町村受理日	平成27年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&IjigyoVoCd=1174200624-00&PrefCd=11&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート		
所在地	埼玉県さいたま市浦和区領家2-13-9-103		
訪問調査日	平成27年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭の延長線上の施設として、利用者や職員が家族同様に穏やかに日々を送られていると思っており
ます。
また、開所当初より、日中は鍵をかけない対応をしています。よって開放的で過ごしやすい環境になっ
ていると感じています。
職員一同、利用者の尊厳を重視し、心に寄り添い、サービスの提供をしていると思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

●日中は玄関を施錠しないなど職員による丁寧なケアが実施されている。身だしなみへの配慮・バランスを考慮し
た食事の提供等々、細やかなケアが利用者からの信頼に繋がっている。
●消防署に隣接する万全な立地に慢心することなく、利用者の歩行状況・視力・聴力を記載したカードを設置する
などの整備がなされており、現在は避難の際の混乱時に支援を受けられるためのステッカーも考案されている。そ
の取り組みへの姿勢は他の範となるものである。
●散歩・レクリエーション・体操等に注力しており、時間や労力を惜むことなく利用者の健康維持・増進に努めてい
る。花見・芋ほりなどの行事、制作物や花などの装飾は季節感を意識しており、ホームに潤いを与えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の日常生活において、心穏やかに過ごせるよう支援を行なっております。	ホームの理念は誰にでも理解してもらえるよう改定をしている。「和」(なごみ)の文字のもと人格の尊重・寄り添う支援・質の向上等を謳った理念を実践するため職員が力を合わせて支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には、参加しています。また、近隣への買い物へ出かけております。	地域の秋祭りには、家族にも案内をだし、利用者とともに参加している。毎年2つの小学校が学習の一環として訪問しており、温かな交流が続けられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や買い物等で外出をしている為、地域の方々と触れ合う機会もあり、挨拶を交わすなどで理解をして頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族の方からの要望や意見を述べる場として活用しています。また、施設側から利用者の日常の様子を報告しております。	地域包括支援センター、区長、民生委員、家族等が参加し、2カ月に1回の定期開催がなされている。防災や行事などについて活発な意見交換がされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場へ出向いたり、メールでのやり取りを行ない最新の情報入手に心掛けております。また、介護ネットの利用などもしております。	研修の案内や入居者情報の連絡などEメールを通じて頻なるやりとりがなされている。地域包括支援センターと行政の窓口が近いため、密接な連携が可能となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルの作成をし、時に委員会を開催しています。	身体拘束委員会の発足とマニュアルの策定により適切な支援となるよう努めている。日中は玄関の施錠をしておらず、利用者の自由な生活に対して支援がなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者のケアにおいて、介護者側の都合を押し付けていないか等、常に相手の立場に立った支援に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時には、関係所より情報を入手するよう心掛けております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問時には、常に対応に心掛けております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、ご家族からの要望を伺ったり、利用者の身体状況や日常の様子を伝えたりしております。	面会時には日常の様子や健康状態の報告をし、要望の聴取にも努めている。本評価に伴う家族へのアンケートにおいて「家族の要望を理解しているか？」の問いに対して「はい：よく理解している」の回答が100パーセントとなっている。	生活状況の記録が利用者別にノートに詳細に記録されている。今後は面会時などに家族に閲覧してもらうことを検討しており、実施により更に日常の様子やケアについて理解を深めてもらえることが予想される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場での意見は、改善できるところは改善へと必ず話し合いを持ち決定しております。	職員全員が集合できる機会が中々ないため、連絡ノートを使い、意見の交換がなされている。最初は管理者からの問いかけが多かったが、職員からの積極的な意見が増えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場の雰囲気や業務遂行に支障の無いように働き掛けをしております。また、職員の健康管理にも配慮しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	気分よく働ける職場であれば、自ずと職員が向上心を持って貰えるでは、と思い認知症についてや高齢者ケアに関する資料を用意しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修への参加に努めております。また、ホーム内での勉強会も行なっております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の生活歴を知り、職員一人一人が信頼関係の構築に努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望を伺い、ひとつずつ解決策を導き出すように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に、ご家族との話し合いを持ち、どのような援助を希望されているのか、利用者には、どのようなケアが必要なのか、見極めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームはひとつの家族である、と職員一同が認識しているので、相手への思いやりの心での支援をすよう努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と協力をし、当人がホームで心穏やかに過ごせる方向性を導き出してしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を限定していない事により、ご家族を始め、親戚や友人が何時でも逢いに来られるよう配慮しております。	家族や知人が気軽に面会に来られるよう温かな雰囲気を作られている。早朝の面会や突然の来訪にも柔軟な対応と支援がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介に入るようにし、話題作りやレクリエーション等を行ない、利用者同士が関わり合い日々が穏やかに送れるよう援助しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後や亡くなってしまった後になりますが、今でも、その後の家族との交流があります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	雑談時にコミュニケーションを取りながら、当人の希望を聞き出すようにしております。また、困難な場合などには、ご家族に意向を伺っております。	「自分ならどう思うか」という自問自答をしながら支援にあたるよう指導がなされており、「利用者の思いを受け止める・否定をしない」接遇を心がけ日々の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴を知り、場所は変わってしまいましたが、生活習慣の変化を極力抑えた支援を行なうよう努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の心に寄り添うケアに努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の生活歴を考え、どの様に支援を行えたのならホームで穏やかに生活が送れるのか、ということを根底におき、作成に努めております。	計画作成担当者が職員に日常の様子や意見を聞き、また家族の要望を取り入れながらケアプランが策定されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経営者と職員とで、介護の在り方を勉強し、ケアの質の向上に努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者が、地域の中で自分らしく生活できるように援助を行ない、ご家族にも開放的な施設であると認めて頂けるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設前にある消防署や裏手にある集合住宅に協力要請をしており、利用者が安全に生活できるよう支援しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の指示に対し、ご家族に相談のもと、疾患に合った病院を選択するなどしております。	定期で内科の主治医への受診同行がなされている。一人ひとりの健康状態は詳細に記録されており、医師や家族への報告の証跡となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	早期受診をし、病気の予防に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ADLの低下や認知症の緩和に、病院の主治医と相談をしたり、情報交換に努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者に治る見込みの無い疾患が見つかった場合には、ご家族と相談のもと、ご家族の意見を反映しております。	利用者にとって最善となるよう家族と相談しながら支援方法が検討されている。重度化に対しては年度末の会議において職員と話し合いをする予定となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、年に一度の救急救命の指導を受けております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施や職員連絡網を作成してあります。さらに、施設前には消防署、裏手には集合住宅があり、協力を依頼してあります。	定期で避難訓練が実施されており、連絡網や利用者の歩行状況・視力・聴力が記載されたカードの設置など万一の事態を想定した細やかな対応がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、努めて、利用者の人格を損ねないよう言葉を選び声掛けを行っております。	トイレ誘導の際には、周囲にわからないよう、表現や声の大きさに配慮がなされている。利用者への呼びかけも男性・女性ともに尊厳を尊重した呼び方をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中から当人の思いや希望を聴きだしその中から自己決定できるように話を進めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはありますが、当人の希望や体調等を考慮し無理強いのない支援に努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度の割合で髪のカットを行っております。衣服においては、職員と一緒に選び、最終決定は当人としております。時に、調整を行なうこともあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	キッチンにてのお手伝いのできる方がいませんが、下膳後の食器片づけ等はお手伝いをお願いしております。また、食材の買い物に出かけております。	温野菜を多く出すなど利用者の健康に配慮した献立のもと食事が提供されている。外食やホットプレートでの焼肉など多様な取り組みにより、食事が生活の中の楽しみとなるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	口腔機能の低下により、刻み等で対応し、楽しみとしての食事が憂鬱な時間とならぬよう配慮しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には、職員の見守りのもと個々に行なっております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員間で違いが無いよう話し合いを持ち、当人のレベルに合わせた統一したケアを行っております。	排せつの記録が詳細になされており、パターンの把握に活用されている。また記録用紙には注意事項も記載されており、配慮ある適切な支援が実施されるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼ることなく、運動や食事に対応をし、身体的に低下が認められた方のみ、医師の指示のもと薬の処方して頂いております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回15:00～行うよう決定しています。でも、利用者より要望があれば、日程外、時間外での対応もしております。	家庭的な浴室が整備されており、利用者の体調を考慮しながら・チェアーやシャワーを利用しながら清潔の保持がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の入浴日あわせ、パジャマや寝具の洗濯をしています。また、天気の良い日には、布団干しを行ない気持ち良く休めるよう支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬一覧ファイルがあります。それにより職員は、薬についての学ぶことが出来ます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の得意分野を生かせるよう、役割分担を決めお手伝いをして頂いております。また、行事等により日常生活の気分転換を図っております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候にもよりますが、散歩や近くへの買い物等の短時間の外出をしています。また、遠方への外出は、事前の下見や計画を立ててから行なっております。時に、利用者からの要望を取り入れたりもしています。	日常的に散歩がなされており、テラスでの外気浴とあわせ戸外での活動が積極的になされている。月に2回の行事は担当職員により計画されており、花見や芋ほりなど季節を意識した外出がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	残念ながら、外出先でのお買い物で支払いのできる方がおりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	当人からの要望があった場合には、対応しております。また、家族や友人からの電話があった場合には電話口への誘導をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝の掃除時には、窓を開け空気の入替えを行ないようしております。また、玄関やホール円卓には、お花を飾るなどし季節感を味わえるよう心掛けております。	花や装飾が各所になされており、温かく家庭的な雰囲気をもっと増している。季節を意識した利用者の塗り絵とちぎり絵もリビングを彩っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	円卓の椅子は決まっていますが、ホールのソファーには、思い思いに腰をおろして頂いております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れた家具等を持ち込みして頂いております。また、趣味のものにおいても危険性の無い物であれば持ってきて頂いております。	人形・テレビ・ぬいぐるみ・ダンスなど利用者の思い思いの荷物が持ち込まれている。利用者が安心して休息できる広いスペースが確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせた支援を行ない、日々の日常が張りのあるものとなるよう努めております。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	利用者のケース記録について、ペンの色を変えて24時間日常の様子を記載しています。今後、ご家族へ閲覧して頂くのはどうか。ご家族からのホームへの要望も伺いやすくなるし、サービス計画書への反映にもなると思います。	職員は、ケース記録の記入の仕方をもう一度振り返る。ご家族の面会時には、ケース記録の閲覧をして頂く。	「ケース記録」について、その必要性・重要性についての勉強会を開催する。ケース記録の記入表現はどうか、誰が見ても読みやすい文字になっているか等。(文字の癖はなかなか直すのが難しいことかもしれません。)	6ヶ月
2	33	勉強会の予定は、立ててありますが、開催ができていません。利用者の日常ケアに追われてしまっているのが現状です。	利用者の高齢化に伴い、「重度化及び終末期のケア」について、職員勉強会を行う。	勤務調整を行い、開催できるような勤務作成を考える。開催時間を検討する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。